2025年　7月 1日

Tazaki財団英国留学奨学金留学成果報告書

一　橋　大　学

所属学部・学年	法学部4年	氏　名	中島萌
派遣先国 （地域）	英国	派遣先大学	ロンドン大学 東洋・アフリカ研究院
派遣期間	2024年　9月　～　2025年　6月		

留学目的の達成度・留学成果について

この留学の目的は、大きく２つありました。ロンドン大学東洋・アフリカ研究院(SOAS)で国際関係や歴史学を学ぶことと、日常会話・学術面両方において英語力の向上を目指すことです。

10カ月の留学生活を振り返ると、知見を深めること、英語力の向上ともに、存分に目的を達成し、それ以上に多くの学びを得ることができたと感じます。そして、SOASでの学びを一文で表すなら、世界は自分が思っていた以上に広く、自分の知らないことばかりで、様々なものの見方がある、という現実を突きつけられる日々であったと言えます。自分の考え方は、これまで生きてきた過程で醸成された一つの考え方に過ぎず、自分の思考が相対化されたように感じました。アジア・アフリカ・中東研究に特化した大学の特性から、多くの授業で脱植民地化やポストコロニアリズム、西洋中心主義への批判がキーワードになっており、日本での教育が全てであった自分にとっては、新たな視点で社会を見ることが求められ、戸惑いがあった反面、視野を広げる好機であったと感じています。

特にそれを実感したのが世界史の授業です。高校からの世界史の授業を振り返ると、欧米史や中国史、大国の政治を中心に学んだように思います。授業名は世界史と同じであっても、SOASではアフリカや中東、アジア、南米の歴史を中心に学ぶ授業でした。一般的な日本の世界史の教科書では多くのページを割かれていない事柄を深堀することは、とても興味深いものでした。

また、視野が広がったという点で特に印象に残っているのは、中東政治の授業です。履修者には中東にバックグラウンドを持つ生徒が多く、授業で扱う内容が当事者である生徒がいる中で発言をすることは、勇気のいる、ハードルが高く感じることでした。しかし、教授・生徒双方で様々な意見を受け入れる空気があり、ひとりひとりが議論に向き合い、わからないことはわからないと言える環境があることに衝撃を受けると同時に、少しずつ発言もできるようになっていきました。キャンパス内外ではデモ活動が頻繁に行われていたのですが、外から聞こえるデモの声を聞きながら、教室の中では一人一人が議論をしている、そこに一義の正解は見つからない、社会の複雑さを実感した瞬間でもありました。

それから、留学当初は、想像以上に自分のスピーキングやリスニング能力の未熟さに苦しさを感じることが数多くありました。しかし、フラットメイトや友人に恵まれ、また授業外でもソサイエティ（日本ソサイエティ、模擬国連など）に積極的に参加する中で、少しずつコミュニケーションに慣れ、会話力が向上したように感じています。

大学外では、ロンドンにあるかるた会に参加したり、ボランティア活動に参加したりしました。日本にいる時から、漫画やアニメの影響で海外でも競技かるた人口が増えているということは耳にしていましたが、実際に様々なバックグラウンドを持つ人たちが、百人一首を並べ向かい合う光景に衝撃を受けるとともに、文化の「人を繋ぐ力」を目の当たりにし、嬉しく感じました。

海外での生活について

初めての海外生活で、多くの不安を抱え始まった留学生活でした。手続き面でのトラブルや、現地の病院を受診する際など、慣れない環境で対処しなければいけないものもありましたが、その時々で助けてくれる方々がいて、乗り越えることができました。

私はSOASの学生が500人ほど住んでいる大きな寮で生活し、6人でキッチンをシェアしていました。私以外の5人は正規生で、日本からの留学生は私ひとりだったのですが、皆とても明るくフラットに接してくれ、会話の中でお互いの文化を知り合える貴重な機会でした。

期末期間は課題や試験勉強に心が折れそうになることもありましたが、フラットメイトと励まし合いながら乗り越えることができました。周囲の方々の支えがあったおかげで、充実した留学生活を送ることができたことに感謝しています。

また、休日には課題に追われつつも、現地で知り合った友人たちと英国内外の博物館や史跡を巡る機会にも恵まれました。帝国戦争博物館や大英博物館など、ロンドンだけでも多くの博物館があります。本や教科書で見ていた文化財が実際に目の前にあるという感動は、何にも代えがたいものでした。

派遣先大学の授業内容について

国際関係・政治学部と歴史学部から半分ずつ授業を履修しました。「SOASだからこそ学べるものを選びたい」という軸に沿って、履修登録を行いました。アジア・アフリカに注目した世界史や中東政治など、SOASに来たからこそ学べるものばかり履修できたことは幸せでした。

どの授業もとても興味深かったのですが、授業のユニークさで特に印象に残っているのは、アヘンの歴史を辿りながら帝国史や貿易史を学ぶ授業です。授業履修前には、アヘン戦争のきっかけとなったという程度の印象しかなかったアヘンが、歴史的にどのように人々に受容され、文化が形成され、消費され、帝国に利用され、大規模な戦争へと繋がっていったのかを見ていくことは非常におもしろく、現代の麻薬戦争やドラッグ・カルチャーへの視座を与えてくれるものだと思いました。

また、戦争に関する国際関係論の授業では、毎週異なる様々なトピックを扱ったのですが、特に戦争における身体に注目する授業が深く心に残りました。理論を学ぶことは重要である一方で、学問としてのInternational Relationsから時に抜け落ちてしまう人間の身体性に注目すると、戦争は本質的に人間が傷つくものだという現実を改めて強く意識させられました。

今後の学習・進路への影響について

SOASで出会った友人の中には、社会人を経験してから再度大学で学んでいる人も多く、様々なキャリアを持つ人々と出会う中で、キャリアに対する考え方がより柔軟な方向へと変化したように感じています。研究に対する意欲が高まると同時に、実践にも関わりたいという思いが芽生えました。また、留学で得た英語力を維持し、さらに成長していけるよう、英語で会話する機会を意識的に確保して、将来につなげていきたいと思います。

寄附者への謝意

今回のロンドン留学にあたり、Tazaki財団様におかれましては多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。円安が進行する中で10カ月もの長期間、英国で留学生活を送ることができましたのは、Tazaki財団様のご支援なしには実現しえなかったことであり、日本で経験することの

できないグローバルな体験が詰まった 10 か月間は、私の人生においてかけがえのない大きな財産となりました。大変感謝しております。

今後はこの留学で得た経験を生かし、少しでも社会に貢献できる人間になれるよう、日々研鑽を深めていきたいと思います。

改めまして、ご支援を賜りましたことに深く御礼申し上げます。ありがとうございました。